



3学年主任  
熊谷 透先生



進路指導主事  
田島博文先生



教頭  
高坂 智先生



キャリア教育全体計画の中で特別活動をデザイン  
特活で培った自己理解や人間関係を土台に  
あらゆる教育活動を通じて主体性を育む

キャリア教育全体計画の中で特別活動をデザイン

キャリア教育目標、育む力を  
すべての活動にブレイクダウン

普通科と表現科を設置する八戸東高校は、100年以上の歴史をもつ進学校だ。高校卒業後の進路実現だけでなく、より長期的な視点に立った人材育成の必要から、7年前より、社会で生きるための力を育むキャリア教育を学校経営の核に据えている。

同校では、学校の教育理念に基づいて、キャリア教育目標と育てたい能力を設定。そこから、学年目標、そして「総合」「特活」「教科」の各活動へとブレイクダウンし、あらゆる活動をキャリア教育として実施している(図1)。その内容は、生徒の実態を踏まえて毎年見直してきた。

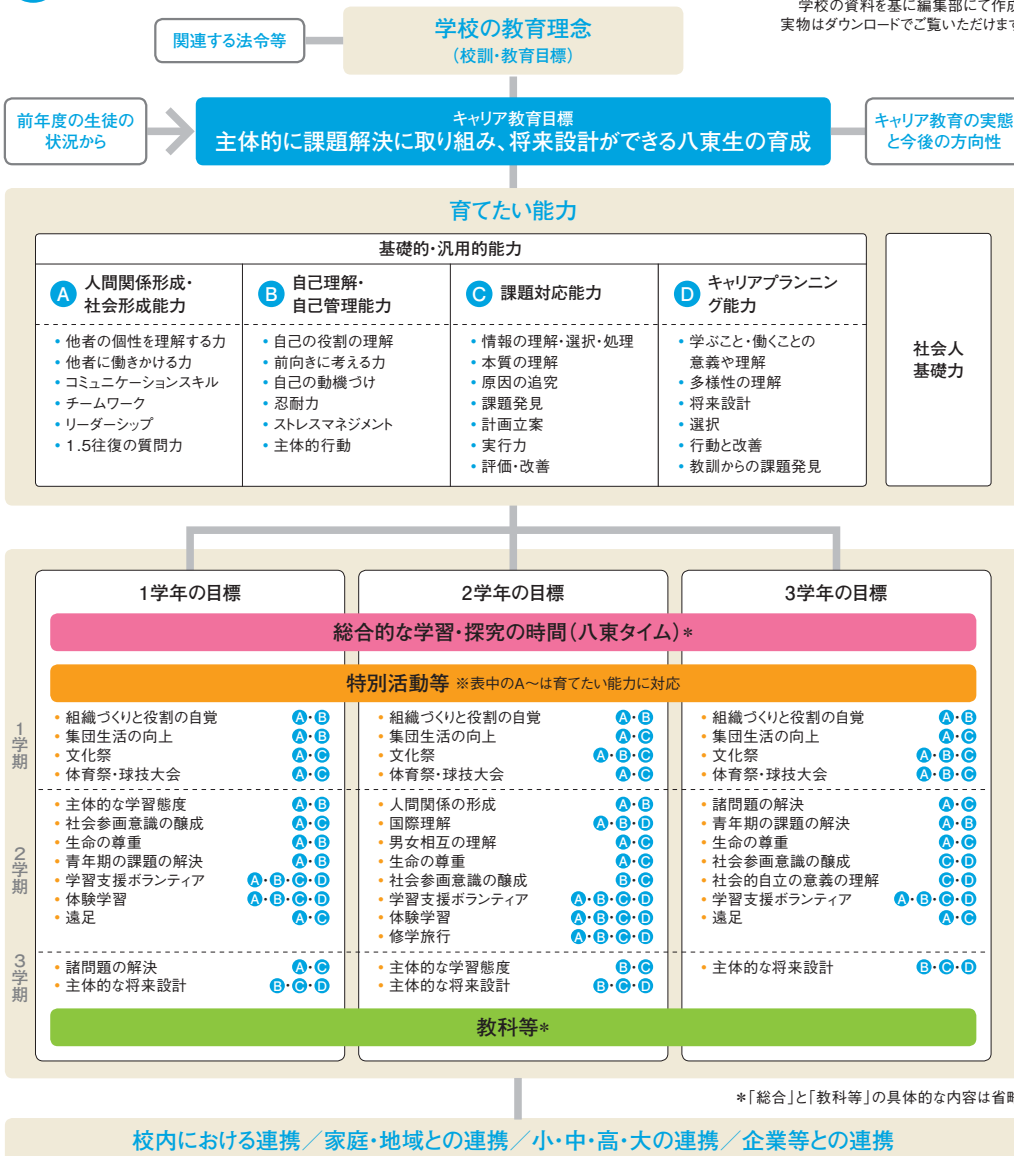
「昨年度の生徒のポートフォリオ記入内容に見られた『経験で得たことを次の課題設定に結びつける力が弱い』という課題感から、今年度は目標も見直し、『主体的に課題解決に取り組み、将来設計ができる八東生の育成』としました」(高坂 智教頭)

全体計画の中で特に大切にしている

図1 キャリア教育の全体計画(2019年度)

ダウンロード可

学校の資料を基に編集部にて作成  
実物はダウンロードでご覧いただけます



八戸東高校(青森・県立)

取材・文 / 藤崎雅子



構成的グループエンカウンターでは、グループごとに、提示された言葉について考えを伝え合った。「相手を知っているつもりだったが理解が足りていなかった」「多様な考え方を知り視野が広がった」などの感想が挙がった。



小学校の学習支援ボランティアには年間のべ約100人が参加している。

**特活で身に付けた基礎能力を  
教科・総合で発揮**

「他者に質問したら、回答をもらって終わりにするのはなく、もう一歩踏み込んだ質問や感想を返す。それによって、相手の話を表面的に捉えるのではなく、深く理解し内面化させる力を付けてほしいと考えています」(進路指導主事・田島博文先生)

同校のキャリア教育実践において、特活は「土台づくり」の時間との位置付けで、自己理解や人間関係形成に力を入れている。

「本校のさまざまな活動で効果的に生徒の成長を図るためには、まず、自分の考えを大切に、他者とコミュニケーションするなどの基礎力が大切。そうした力の育成が特活の重要な役割の一つと考えています」(高坂教頭)

年度始めには、構成的グループエンカウンターのエクササイズを実施して自

己理解・他者理解を図っている。また、講演会や進路相談会などの機会には、対話力を深めるための「1.5往復の質問」を生徒に勧めている。

「他者に質問したら、回答をもらって終わりにするのはなく、もう一歩踏み込んだ質問や感想を返す。それによって、相手の話を表面的に捉えるのではなく、深く理解し内面化させる力を付けてほしいと考えています」(進路指導主事・田島博文先生)

文化祭や体育祭などの学校行事では、生徒主体の話し合いによる意思決定や、役割分担しながら課題を乗り越えることを実践的に学ぶ。また、「経験が人を成長させる」との考えからボランティア活動を推奨しており、小学校での学習支援や地域イベントのサポートなどに多くの生徒が自主的に参加し、地域のなかで多様な視点を身に付ける。

生徒はこうして特活で育んだ力を土台にして、「総合」で展開される校外体験学習や課題探究活動、模擬議会やビジネスコンテスト参加などを盛り込んだ3年間のプログラム、および各教科における生徒参加型の授業に取り組む。

「特活での経験があるからこそ、学校外の多様な人とのコミュニケーションや協働へとステップアップすることができ、授業では生徒の積極的な発言によって学びを深めることにつながっているのではないだろうか」(3学年主任・熊谷透先生)

図2 振り返りシートの例

学習支援ボランティア振り返りシート		参加者番号
(相山) 小学校で実施		97
ボランティア参加日 平成30年 7月 (24.25) 日		
※1つすべての項目に記入		
I 参加のねらい(目標設定/身に付けたい態度や力)	【目的・計画】	
相手の夢の小学校教師に近づけるために小学生との接し方を学び肌で感じる。		
II 参加して気付いたこと・知ったこと ※3つ記す	【気付きの報告】	
① 小学生はとにかく喜んでくれる		
② ところが緊張しながら接すれば相手を緊張させる		
③ 「教えること」が意外と大変らしい		
III 参加して得たこと・学んだこと・苦労したこと・やがりがい	【気付から教訓へ】	
私は主に担任の先生に話を聞いてもらって、話を聞いてもらうことが大事だと感じた。また、話を聞いてもらうことが大事だと感じた。また、話を聞いてもらうことが大事だと感じた。		
IV 目標の達成度/今後どのように活かしたいか	【自己評価/教訓から次の計画へ】	
やがりがい、小学生に教える、というのは、普段自分が教えるに比べて教えるのが大変だと感じた。また、話を聞いてもらうことが大事だと感じた。また、話を聞いてもらうことが大事だと感じた。		

**授業・探究・行事…実践からの  
学びをHRで振り返る**

さらに今後、HRを、振り返りの時間としても強化していく方針だ。

同校では2年前より、学校行事や進路イベント、ボランティア活動などの後の振り返りに力を入れている。表現科の実習での導入を機に、教科の授業でも振り返りが浸透しつつある。生徒は振り返りシートへの記入を通じて経験を言語化し、次の行動にどう活かすか見通しを立てる(図2)。そして、シートの記録は、定期的にオンライン上のポートフォリオに入力し、蓄積している。

HRでは、こうした個々の活動記録を持ち寄って、さらに質の高い振り返りを目指す。今年度末のHR活動では、

どの振り返りでも、同校キャリア教育の方針に沿った振り返りができるように基本項目を設定。「I参加のねらい」「II参加して気付いたこと・知ったこと」「III参加して得たこと・学んだこと・苦労したこと・やがりがい」「IV目標の達成度/今後どのように活かしたいか」を記入することで、単なる感想で終わるのではなく、次の活動の見直しにつながることを促している。

1年間を振り返って自己評価し今後を見通した内容について、クラスメイトとも共有することで新たな気付きや意欲を促す計画だ。

「特活」「総合」「教科」それぞれの経験を積み重ね、そこからの学びを有機的につないで、人生のストーリーを描いてほしいですね(田島先生)

特活で育んだ土台を総合や教科に活かし、逆に総合や教科の学びを特活において確実な成長につなげる。「そうした往還によりキャリア教育の強化を目指す」と高坂教頭は語っている。